

化学品と石油化学製品 (1/3)



セクター* 概要¹

世界マーケットシェア	インドは世界第6位の化学品および石油化学製品の生産国、世界における化学産業の約3.5%に寄与 (2018-19年度)。
国内生産	27.8 MMT (2018 – 19年度)
国内消費	37.1 MMT (2018 – 19年度)
国内需要の伸び (過去3年間)	4.7 % (ただし、石油化学製品はより急速に伸びており年平均成長率は9-10%と見込まれている。)
純輸入量	全体消費の約26%
FDI資金流入(全体に対する割合)*	9 % (2000年4月 – 2019年3月)
世界需要の伸び (過去3年間)	4.1 %

*Sectors include chemicals and petrochemicals

顕在化した、または潜在的な影響

項目	影響	コメント
供給サイド		
主要な原材料の価格変動	高	<ul style="list-style-type: none"> 石油化学製品の原材料価格は主に原油価格の影響を受けて下落している。ロシアとサウジアラビアの価格戦争とCOVID-19による世界的な需要減少で供給過多となり、価格は下落することが見込まれる。 中国（主な輸入先）での減産によって、化学品（特に特殊なもの）の原材料の供給が不足し、中長期的に原材料価格が上昇する可能性がある。
製造拠点の閉鎖	高	<ul style="list-style-type: none"> ロックダウンによる主な川下産業– 繊維やパッケージング(PET)の減速は石油化学製品の需要に波及効果をもたらし、貯蔵容量の制約により液体製品にも影響を及ぼす。 一部の必須カテゴリー(肥料や医薬品など) 以外の化学品についても、生産稼働率の低下が予想される。
資金繰り	高	<ul style="list-style-type: none"> 化学品製造会社の大部分は中小事業者であり、運転資金について十分な余裕がないため急な資金需要への対応が困難。顧客およびサプライヤーに対する支払期限の延長は、収益低下と相まって中長期的にキャッシュフローに悪影響を与えると予想される。
サプライチェーンの寸断	中	<ul style="list-style-type: none"> 道路の交通制限は短期的に国内のサプライチェーンに影響を与える。また、中国で主要な港が封鎖されたことにより、サプライチェーンの世界的な混乱が予想される。
労働力	中	<ul style="list-style-type: none"> 中小事業者が多く不確実性が高いことから、労働力の流出が見込まれる。 製油所ユニットと統合された大規模プラントでは問題が発生しない可能性。
輸入	高	<ul style="list-style-type: none"> 主要な輸入元である中国と中東がCOVID-19の影響を強く受けるため、輸入量は減少する見込み。さらにインドの短期的な需要見通しは不透明で貿易業の動きは制限されることが予想される。
価格最終製品	高	<ul style="list-style-type: none"> 石油化学製品については需要低下と市場の不確実性により、価格の押し下げ圧力を受けると予想される。その他化学品については、中国でのCOVID-19の影響により供給が逼迫しているため、需要が落ち込んでも短中期的には中程度から高い価格で維持される可能性がある。

1. Chemicals & Petrochemical Statistics publication, IHS Markit, accessed on 29 March 2020

化学品と石油化学製品(2/3)



顕在化した、または潜在的な影響

項目	影響	コメント
需要サイド		
ロックダウンや その他制限による 影響	高	<ul style="list-style-type: none">肥料などの不可欠なものを除き、化学品および石油化学製品セクターにおける短中期的な最終消費者需要は全体的に鈍化。中長期的な需要見通しは不透明。
輸出	低	<ul style="list-style-type: none">世界的な需要の鈍化とサプライチェーンの制約により輸出は減少する見込み。ただし、輸出はインドにおける生産量の15%未満であるため、国内産業に大きな影響はなし。²

- 石油化学製品の価格は、世界での供給過多と需要の鈍化による懸念から、すでに押し下げ圧力の影響を受けている。COVID-19は以下のように更なる悪影響を及ぼす可能性がある。
 - 原油価格の下落と石油化学製品への連鎖的な影響に加えて、国内および世界における需要の不確実性により、石油化学製品の価格は低いままである可能性が高い。
 - 中国が世界の石油化学製品容量の3分の1を占めていることを考慮すると、多くの生産者は停滞している世界市場の状況から大量の在庫を抱えることが予想される。COVID-19後、生産者は在庫を整理し運転資本ストレスを軽減するために、積極的な価格設定をとる可能性がある。
 - 上記は世界中の重要な港での制限措置と相まって、グローバルサプライチェーンを寸断し、在庫の滞留をさらに悪化させ、価格引き下げにつながる。
- 2020年下半期に計画されているキャパシティーは少なくとも数四半期は遅れるため、投資家に財政的なストレスをもたらす可能性がある。建設労働力流出の問題は、政府がそれに対処しない限り、当該遅れをさらに悪化させる恐れがある。
- 不確実な需要の見通しと価格の低下は市場心理を弱め、このセクターへの投資が遅れる可能性がある。ただし、インドは中長期的には成長と投資に必要な基本的な要素（人口あたりの化学物質需要の増加、製造ハブとしてのアジアへのシフト、購買力と労働力の増加）を依然として保持している一方、経済活動の回復のタイミングについては疑問が残る。
- サプライチェーンの制約と予想される労働力の流出は回復のペースとタイムラインの主な阻害要因となる。ロックダウンが解除されるとプラントは徐々に通常の生産を再開することになるが、諸々の制限は2020年第2四半期後半に解除され、2020年下半期に市場が回復する準備が整うと予測される。

2. Export-Import (EXIM) databank, Ministry of Commerce, accessed on 30 March 2020

化学品と石油化学製品 (3/3)



主要な提言事項

提言事項	短期	中長期
追加のインセンティブの検討	<ul style="list-style-type: none">石油化学製品の製造稼働率を上昇させるため、金銭的/非金銭的な恩恵の付与を検討する。	<ul style="list-style-type: none">石油、化学品、石油化学製品分野に対する投資誘致は順調ではない。税金、インフラ、輸送などの観点から投資を促進するインセンティブの検討が重要となる。
中小規模事業者に対する財務支援	<ul style="list-style-type: none">化学品や石油化学製品の川下領域に従事する事業者は中小規模であり、運転資金に余裕がないケースが多い。柔軟かつ好ましい条件で資金借入を受けれるようにする財務支援が必要である。	<ul style="list-style-type: none">将来の需要見通しには不確実性が伴うため、市場心理を回復し、また将来の生産力の強化を目的に、中小事業者向けの優遇貸付、投資優遇措置が必要である。
輸入関税率の見直し	<ul style="list-style-type: none">供給競争力を確保するため、原材料に対する輸入関税率を見直す。	
貿易施策	<ul style="list-style-type: none">川下領域の製造業者をダンピングや低品質輸入品から保護するため、FTA（貿易協定）およびダンピング規制を見直す。	